

令和5年度 前期始業式挨拶

- みなさん、おはようございます。春休みで静かだった校舎内外に、皆さんの元気な声が聞こえ、新年度がいよいよ始まるんだなと実感しています。また、私たちの日常生活を脅かしてきた新型コロナウイルスもようやく収束に向かう中、これまでと違う心持ちで新年度を迎えている人も多いのではないのでしょうか。しかし、今後も個人個人、感染拡大防止に心がけ、安心・安全な学校生活を送ってみたいと思います。
- 話は変わりますが、この前、久しぶりに映画を観に行きました。皆さんの中には既に観た人が多くいるのではないかと思います。遅ればせながら新海誠監督の『すずめの戸締り』です。日本独特の風習、習慣が織り込まれているため、内容的には賛否両論があるようですが、個人的には12年前に起こった東日本大震災をモチーフとした深い内容とともに、独特の透明感のある素晴らしい作品だと思った次第です。
- 大学時代はよく映画を観に行きましたが、最初に映画館で観たのは、高校時代で確か地下中劇で黒沢明監督の『影武者』だったと記憶しています。ここ最近では映画館に足を運ぶのは、年に1、2回程度です。これまで最も感動した映画は『ニュー・シネマ・パラダイス』で、流れる美しいメロディーとともに、心が温かくまた切なくなる内容で、何度観ても飽きない素晴らしい映画です。是非観ることを勧めます。その反対というか、別の意味で強烈なインパクトを受けたのは、アーノルド・シュワルツェネッガー主演の『ターミネーター』です。
- 簡単に内容に触れると、未来の地球を支配していたAI（人工知能）にとって、邪魔な存在である人類のリーダーを排除するため、現代に殺人ロボット、ターミネーターを送り抹殺しようとするのですが、最後は…というタイムトラベルSF映画です。この映画も最後の最後まで手に汗を握る内容ですが、今日話したいのは、映画のことではなく、人工知能AIと人間の良識についてです。
- 現在も続いているウクライナ戦争では、ロシアのAIを搭載した無人攻撃ドローンや偵察機により、今でも戦争には関係のない多くの市民が巻き添えとなっており、“人道”に反する行為が相変わらず続いています。誤解を招かないよう言えば、ウクライナ側も戦場では同様の兵器を使用しているようですが。
- 多くの市民が巻き添えとなっているニュース映像を見ながら、以前哲学者の森岡正博氏が、「もし戦争が不可避となった場合、AIを使用して殺害したい人物を瞬時に識別し、ピンポイントで狙って消し去り、一般市民の犠牲者が少なくなるような戦争こそが、最も人道的な戦争であると言われた時、いったい誰がそのような戦争に反対できるだろうか」と述べています。
- また、今世界中で、人間と会話をするように自然な答えを返してくれる、対話

型人工知能である“チャットGPT”が注目され、利用が急速に拡大しているようです。さらに、学生がチャットGPTを使用して就職時に必要な書類を作成し、企業側がAIを使用してその書類を審査して採用か不採用を決めるというような、笑えない状況が今後起こる、もしかしたら起こっているかもしれません。

- このように、私たちのAIへの依存度は今後さらに高まり、「AIが言っているのだから大丈夫だ」とか「まずは、AIに聞いて決めよう」などという状況になることも考えられます。また、2045年にはシンギュラリティに到達すると言われていますが、果たしてそれが、私たちにとって幸せでより良い社会といえるのでしょうか。まさしく、森岡氏が言うところの「テクノロジーが私たちの良識に突き付けてくる難問」だと思います。
- この難問に対して私たちは、これまで以上に“良識と豊かな感性を育む”ことが大切ではないかと思えます。「良識」とは何か、岩波書店の「広辞苑」には「社会人としての健全な判断力」、また三省堂の「大辞林」には「すぐれた見識。善悪の判断を下せる、社会的につちかわれた見識」と記されています。すなわち、「良識」とは先天的なものではなく、人間の様々な営みや経験などによって培われる判断力だということです。
- “良識と豊かな感性を育む”ためには、これまで以上に深い対話をするのが重要でだと考えます。対話を通して、個人個人の考えを深く知り、課題に対する共通理解を深め、より良い方向性を見出していくことが、難問の解決の手がかりとなるのではないのでしょうか。
- コロナ禍、感染拡大を恐れて、様々な場面での対話が少なくなっていたと思います。オンラインでの話し合いに関しては、確かに利便性はありますが、深い議論、すなわち十分な対話に至らないことがあるのではないかと個人的には感じています。
- With コロナの時代が本格的に始まる今年度、通常の授業ではもちろんのこと、班活動や生徒自治活動、さらには地域の人たち、異年齢の人たちとの対話を積極的に行い、より良い社会構築のための健全な判断力、良識を育んでもらいたいと願っています。また、書物を通して過去や未来、あるいは世界と対話すること、四季の移ろいの中で、自然と対話することも優れた良識を育むことに繋がるのではないのでしょうか。映画鑑賞もまた対話かもしれません。また、校長室での対話もWelcomeです。
- 新年度、3年生にとっては次のステージを見据えた“発展期”、そして2年生にとっては高校生活をより豊かにするための“充実期”だと思います。それぞれの目標に向けて頑張ってください。今年度の皆さんの活躍を大いに楽しみにしています。また、明日には新たに243名の1年生が入学してきます。先輩として、また仲間として、1年生が充実した高校生活を送られるよう、暖かく見守ってみたいと思います。